

学力向上に向けた取組

函館市立椴法華小学校

1 課題

- 基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着
- 自分の思いを豊かに表現する子の育成

2 課題解決の具体策

- ①言語活動・読書活動を充実させる
- ②個に応じた指導を充実させる

3 取組の概要

①について

ア. 言語活動については、特別活動で、隔週で行っている全校朝会の中に発表集会を位置づけている。各学年に行事の感想や報告、長期休業中の体験を割り当て、全員が全校児童の前で発表する機会となっている。高学年については所属する委員会の発表も行っている。また、始業式や終業式では、各学年に割り当てをして、代表が意見発表を行っている。

イ. 毎日8:15から8:35までの20分間を「とどっこタイム」として日課表に位置づけ、主に全校一斉の活動を行っている。計算（月・木）、読書（火）、体力作り（水）、合唱・朝会（金）と曜日ごとに内容を設定している。週1回ではあるが、朝読書の時間を確保している。11月を読書月間と位置づけ、朝読書の日を週2回に増やし、全校児童を6～7グループに分けて本の読み聞かせをする全校読書会も実施している。

②について

ア. 計算力向上させることによって、算数に対する苦手意識をなくしていこうということで上記の「とどっこタイム」の中で週2回計算を行っている。1枚5問のプリントに各自で取り組んで自己採点をした後、学年担当の先生にチェックしてもらう。間違った問題はやり直して、クリアしたら難易度の高い次のプリントに進むというステップアップ方式の活動である。進度が速い子については文章題のプリントに取り組むことになっている。少人数であるという特性を生かし、一人ひとりのつまずきにいていねいに対応して計算力向上を図っている。



イ. 学級の実態に応じて、放課後に補充的指導を行っているが、夏・冬の長期休業中についても学習会という形で同様に取り組んでいる。宿題を自分一人ではやり遂げることが困難な子をはじめ、わからない問題を教えてもらいたいという子が参加している。在籍児童の半数以上が参加していることから、地域に学習塾がないという実態に合った、必要とされる取り組みと思われる。

4 成果と課題

- 発表の機会があることで、子どもの励みになり、自信をもった発表が多く見られるようになった。
- 計算については、一人ひとりが自分のペースで楽しみながら進めていて、計算好きの子どもが増えている。
- 本に興味をもつ子が増え、2学期の貸し出し冊数は1学期に比べ大幅に増えた。
- 言語活動の充実のため、学年間の系統性を考慮した言語環境の整備に努めていく必要がある。

